

出願書類を含む資料は、
テレメール <https://telemail.jp/?des=033551&gsn=033555> から請求してください。

平成24年4月入学

岩手大学大学院教育学研究科 (修士課程)

学生募集要項

日程表

第1期募集	出願受付期間	平成23年8月22日(月)～8月24日(水)
	試験日	平成23年9月14日(水)
	合格発表	平成23年9月27日(火)
第2期募集	出願受付期間	平成23年12月12日(月)～12月14日(水)
	試験日	平成24年1月31日(火)
	合格発表	平成24年2月15日(水)

岩手大学

目 次

I	教育学研究科(修士課程)アドミッション・ポリシー	1
II	入学者選抜方法の区分	1
III	選抜方法等	1
	1 募集人員	
	2 出願資格	
	3 個別の出願資格審査	
	4 出願手続	
	5 入学者選抜方法等	
	6 合格者の発表	
	7 入学手続等の概要	
	8 教育方法の特例措置等	
	9 長期履修制度	
	10 個人情報の取り扱い	
	11 障がい等を有する入学志願者との事前相談	
	12 問い合わせ先	
IV	電算処理カードの記入要領及び記入例	11
	1 記入要領	
	2 正しい書き方例	
	3 記入例	
V	教育・研究業績調書の記入要領及び記入例	13
VI	専攻・コース別授業科目一覧	14
VII	教育学研究科担当教員の主な研究テーマ	17

I 教育学研究科（修士課程）アドミッション・ポリシー

岩手大学大学院教育学研究科は、近年の学校教育を取り巻く社会状況の変化や多様化・複雑化する教育課題に対応することができる高度な専門的知識と実践的力量を備え、併せて地域社会・文化の向上に寄与することのできる専門的資質・能力を備えた人材の養成を目的としています。

本研究科では、次のような大学院生を求めています。

1. 学校教育に関する基礎的・専門的能力を有する人
2. 教育に関する高度な専門的知識と実践的指導力を備えることを目指す人
3. 教育の諸課題に積極的に関わる意欲を持ち、地域社会・文化の向上に寄与できる高度な力量形成を目指す人

II 入学者選抜方法の区分

入学者の選抜は、「一般入試」、「現職教員入試」及び「外国人留学生入試」の方法により行います。
(5 ページ参照)

III 選抜方法等

1 募集人員

専攻	コース	分野	募集人員	
			第1期	第2期
学校教育実践	教育実践	学校実践, 学校臨床, 生活自立力開発	12名	若干名
	特別支援教育	特別支援教育学, 特別支援心理学, 特別支援保健学		
教科教育	国語教育	国語科教育学, 国語学, 国文学, 漢文学, 書道	20名	若干名
	社会科教育	社会科教育学, 歴史学, 地理学, 経済学, 社会学, 倫理学, 考古学		
	数学教育	数学科教育学, 代数学, 幾何学, 解析学		
	理科教育	理科教育学, 物理学, 化学, 生物学, 地学		
	音楽教育	音楽科教育学, 声楽, 器楽, 音楽学, 作曲		
	美術教育	美術科教育学, 絵画, 彫塑, デザイン, 工芸		
	保健体育	保健体育科教育学, 学校保健, 運動学		
	英語教育	英語科教育学, 英語学, 英語圏文学		
合計			32名	若干名
備考				
1. 本研究科では、第1期及び第2期の計2回学生募集を行います。第1期及び第2期の計2回出願することもできますが、その場合はそれぞれ所定の期間に出願書類（検定料を含みます。）を提出する必要があります。 2. 募集人員は「一般入試」、「現職教員入試」及び「外国人留学生入試」全体の募集人員です。				

2 出願資格

一般入試

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法第83条第1項に定める大学を卒業した者及び平成24年3月までに卒業見込みの者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により、独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び平成24年3月までに授与される見込みの者
 - (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
 - (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号（大学院及び大学の専攻科の入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定））
 - (8) 以下の基準のいずれかを満たし、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - ① 学校教育法第83条第1項に定める大学に3年以上在学した者
 - ② 外国において学校教育における15年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - ④ 我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (9) 本研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成24年3月末日までに22歳に達するもの（平成2年4月1日以前に出生した者）
- ※ 大学教育修了までの学校教育の課程が16年に満たない国において大学教育を修了した者は、(9)の個別の出願資格審査の対象となります。
- ※ (8)又は(9)で出願しようとする者は、「3個別の出願資格審査」を参照してください。

現職教員入試

現に教職にある者又は教育関係機関の職員であって、出願時に3年以上教職経験を有している者で、大学院への入学に際し、勤務校の学校長並びに教育委員会等（私立学校等の現職教員の場合は設置者）から派遣されることが確実であるものとする。

※ 教職とは、学校教育法第1条に規定する学校の教員とします。

外国人留学生入試

日本国籍を有しない者で、次の各号のいずれかに該当するもの

- (1) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
 - (2) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
 - (3) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者で、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められたもの
 - (4) 本研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成24年3月末日までに22歳に達するもの（平成2年4月1日以前に出生した者）
- ※ 大学卒業までに16年を要しない国において大学教育を修了した者は、(4)で出願してください。
- ※ (3)又は(4)で出願しようとする者は、「3個別の出願資格審査」を参照してください。

3 個別の出願資格審査

(1) 提出書類

① 「2出願資格」「一般入試」の(8)及び「外国人留学生入試」の(3)による出願は、次の条件を満たす者とします。

1) 年度末における在学期間

平成24年3月末において、大学在学期間が3年に達すること。なお、休学した期間は、在学期間に含まれません。

2) 出願時における修得単位

在籍大学において、定められた卒業要件単位数の5分の4以上の単位を修得した者又は修得見込みの者

3) 出願時における学業成績

修得単位の10分の9以上が点数評価に換算し、100分の80点以上の成績を得た者

注1) 入学試験に合格した後、平成24年3月末までに上記の条件を満たさないことが確定した場合は、入学を許可しません。

注2) 本出願資格により入学する場合は、学部学生の身分を有することはできず、学部を退学して大学院に入学することとなります。よって、大学の学部卒業を要件としている各種の資格試験は、受験できなくなります。

なお、上記出願資格により出願しようとする者は、事前審査を行いますので、出願受付に先立って次の書類を提出してください。

ア. 出願資格認定申請書 (A4判用紙に任意の形式で事前審査を希望する旨を記載し、署名・捺印したもの)

イ. 最終学校の卒業・修了証明書

ウ. 入学年月日を記した在学証明書又は在学期間証明書

エ. 学業成績証明書 (厳封されたもの)

オ. 履修基準が分かる書類

② 「2出願資格」「一般入試」の(9)及び「外国人留学生入試」の(4)で出願しようとする者は、事前審査を行いますので、出願受付期間に先立って次の書類を提出してください。

ア. 出願資格認定申請書 (A4判用紙に任意の形式で事前審査を希望する旨を記載し、署名・捺印したもの)

イ. 最終学校の卒業・修了証明書

ウ. 学業成績証明書 (厳封されたもの)

エ. 研究歴を証明する書類

※ 外国語で書かれた証明書、文書等には必ず日本語訳を添付してください。

(2) 提出期間等

提出期間 第1期募集 平成23年8月1日(月)から8月2日(火)まで【必着】

第2期募集 平成23年11月29日(火)から11月30日(水)まで【必着】

持参の場合、受付時間は9時から16時までです。

提出先 岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

審査の結果は下記期日までに本人あてに通知します。

第1期募集 平成23年8月9日(火)まで

第2期募集 平成23年12月7日(水)まで

認定された場合は、所定の期間内に出願手続を行ってください。

4 出願手続

(1) 出願方法

志願者は、(4)の出願書類等を取りそろえ、郵送又は持参により提出してください。

なお、郵送する場合は、必ず速達書留とし、封筒の表に「大学院教育学研究科出願書類等在中」と朱書きしてください。

(2) 出願書類等提出先

岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

(3) 出願受付期間

第1期募集	平成23年8月22日(月)から8月24日(水)まで【必着】
第2期募集	平成23年12月12日(月)から12月14日(水)まで【必着】

持参の場合、受付時間は9時から16時までです。

(4) 出願書類等

書類等の名称	提出該当者	摘 要
入学志願票	全 員	所定の用紙に必要事項を記入してください。
電算処理カード	全 員	11ページ以降の記入要領及び記入例をよく読み、記入してください。電算処理しますので、汚したり折り曲げたりしないでください。
写真票・ 受験料 入学検定料 (振替払込受付証明書)	全 員	写真票には、写真(縦4cm×横3cm)をはってください。太線枠内に、志願者本人が記入してください。 検定料30,000円 (別途振込手数料がかかります。)を同封している本学所定の「払込取扱票」を使用し、 必ずゆうちょ銀行又は郵便局の窓口で払い込んでください。 (ATMは利用しないでください。) 払込後、受け取った「振替払込受付証明書(お客さま用)」を日附印欄の押印を確認のうえ、所定の欄にはってください。 検定料は、出願書類受理後はいかなる理由があっても返還しません。 日本国政府から奨学金が支給されている外国人留学生は、検定料を徴収しませんので、「国費外国人留学生証明書」を添付してください。
成績証明書	全 員	出身学校長等が作成し、厳封したもの。ただし、証明書自動発行機で発行されるものは厳封の必要はありません。 外国語で書かれた証明書には必ず日本語訳(A4判、様式自由)を添付してください。
卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書	全 員	出身学校長等が作成し、厳封したもの。ただし、証明書自動発行機で発行されるものは厳封の必要はありません。 外国語で書かれた証明書には必ず日本語訳(A4判、様式自由)を添付してください。
受験票 送付用封筒	全 員	所定の封筒にあて先を明記し、 350円切手(速達料金) をはってください。
ラベル票	全 員	所定の用紙に必要事項を記入してください。
研究希望調書	一般入試 及 外国人留学生入試	所定の用紙に必要事項を記入してください。
研究計画書	現職教員入試	所定の用紙に必要事項を記入してください
教育・研究 業績調書	現職教員入試	13ページの記入要領及び記入例をよく読み、所定の用紙に必要事項を記入してください。 なお、記入した論文、著書、研究報告、作品、レポート等は別刷又は写しを添付してください。
外国人登録 原票記載事項 証明書	外国人留学生入試	「外国人留学生入試」の志願者は、外国人登録原票記載事項証明書(市区町村長の発行したもの)を提出してください。
論文等	外国語科目等の 代替措置を 希望する者	「一般入試」の志願者で大学卒業後3年以上経過した者又はそれに準ずる者で、外国語科目等の代替措置を希望するものは、論文等を提出してください。(5ページの「5入学者選抜方法等」参照)
学士の学位授与 (申請)証明書	一般入試の 出願資格(2)	「一般入試」の出願資格(2)で出願する者は、次のいずれかを提出してください。 ① 学位授与証明書 ② 学位授与申請受理証明書又は「大学評価・学位授与機構に学位授与の申請(予定)をしている」旨が明記されている証明書(様式任意)で、出身大学長(出身学校長)が作成したもの
教育職員免許状 授与証明書等	教育職員免許 状を受けて いる者	教育職員免許状を受けている者は教育職員免許状授与証明書又は教育職員免許状の写しを提出してください。 教育職員免許状授与証明書については免許状を授与した都道府県教育委員会が作成したものを提出してください。
受験承諾書	現職のまま 入学を希望 する者	学校、官公庁、会社等に在職している者で、現職のまま入学を希望するものは、所属長が作成したもの(所定の用紙)を提出してください。
	他の大学院に 在学している 者	他の大学院に在学している者及び「一般入試」出願資格(8)、「外国人留学生入試」出願資格(3)の資格で出願する者のうち他の大学に在学している者は、学長(研究科長又は学部長)が作成したもの(所定の用紙)を提出してください。
その他の書類	該 当 者	・個別の出願資格審査で認定を受けた者は、認定書の写しを提出してください。 ・音楽教育コース志願者は、必要に応じ、楽譜のコピー等を提出してください。

※ 受験票、合格通知書及び入学手続書類等の送付は、迅速、確実に送るため、志願票に記載された日本国内の連絡先（通知を受ける場所）宛に行いますので、十分考慮の上、連絡先を設定してください。

※ 外国語で書かれた証明書、文書等には必ず日本語訳を添付してください。

※ 婚姻等により姓が変わっている場合は、理由を記載したメモを添付してください。

(5) 注意事項

- ① 出願に先立って、必ず希望する専門分野の教員（指導を希望する教員）に相談してください。
なお、教員の連絡先については、入試課に問い合わせてください。
- ② 受理された出願書類の返還及び記載事項の変更は認めません。
- ③ 出願書類に不備のあるものは受理しませんので、記載事項に記入もれ、誤記入等のないよう十分注意してください。
- ④ 出願後、連絡先等に変更があった場合は、速やかに連絡してください。
- ⑤ 出願書類に虚偽があった場合は、入学決定後でも入学許可を取り消すことがあります。

5 入学者選抜方法等

(1) 選抜方法

入学者の選抜は、外国語科目、専門科目（実技を含む）、口述試験の結果、研究希望調書等及び出身大学等から提出される成績証明書を総合して判定します。

試験科目等	選抜方法区分 一般入試	現職教員入試	外国人留学生入試
外国語科目	○（注1）	×	×
専門科目（実技を含む）	○（注1）	×	○（注2）
口述試験	○	○	○（注2）
研究希望調書	○	×	○
研究計画書	×	○	×
教育・研究業績調書	×	○	×
成績証明書	○	○	○

※ 各欄の○印は該当することを、×印は該当しないことを表します。

注1) 外国語科目等の代替措置

大学を卒業後3年以上経過した者又はそれに準ずる者は、論文等の提出をもって外国語科目（国語教育コースにあっては、外国語科目又は専門科目のうち1科目）と代替することができます。

この代替措置を希望する者は、以下の論文等のうち一つ以上を提出してください。（いずれも自らの執筆部分を明記してください。）

なお、論文、研究報告を提出する場合は、発表した全ての論文、研究報告の目録を付し、審査を希望する研究論文等についてはその原本又は写しを提出してください。

ア. 著書

イ. 学会誌、紀要等に掲載された論文等

ウ. 市販の雑誌等に掲載された論文等

エ. 研究集会、地区研究会等における研究報告

オ. 小論文（これまでの研究、実践に関して考察したもの。4,000字以上5,000字未満。）

注2) 専門科目の筆記試験及び口述試験は、日本語で行います。

（但し英語教育コースは日本語及び英語で行います。）

専攻・コース		試 験 科 目			口述 試験	
		外国語（注1）	専門科目（注2）			
教 科 教 育	音 楽 教 育 （注6）	◎英語	◎音楽科教育学Ⅰ ◎音楽科教育学Ⅱ ◎器楽（実技）	○声楽（実技） ○音楽学	○作曲 ○から1科目選択	◎
	美 術 教 育 （注7）	◎英語	○美術科教育学 ○デザイン（実技）	○絵画（実技） ○工芸（実技）	○彫塑（実技） ○から1科目選択	◎
	保 健 体 育	◎英語	○保健体育科教育学	○学校保健	○運動学 ○から1科目選択	◎
	英 語 教 育	◎英語	○英語科教育学	○英語学	○英語圏文学 ○から1科目選択	◎

注1) 外国語科目は、コース毎に出題します。なお、英語教育コース以外の専攻・コースでは、辞書持ち込み可（電子辞書は不可）とします。英語教育コースでは、辞書の持ち込みはできません。

注2) 専門科目は、志願者が入学後、主として研究しようとする分野の科目を、出願時に選択してください。

注3) 教育実践コースの必修科目「教育実践に関する科目」は、「共通問題（3問）」と「専門問題（6問）」で構成されています。これらの中から4問を選択して解答するに当たり、次の2つの条件を満たす必要があります。

① 共通問題3問の中から1問以上を選択し、専門問題と合わせて合計4問を選択する。

② 専門問題については、入学志願票に記した「希望分野」から1問以上を選択する。

なお、この専門問題は各分野（学校実践、学校臨床、生活自立力開発）から2問ずつ、計6問で構成されています。

注4) 特別支援教育コースにおける必修科目「特別支援教育」は、特別支援教育の基礎的部分（特別支援教育学・特別支援心理学・特別支援保健学）について試験を行います。

注5) 国語教育コースのうち「書道」実技の留意事項

① 漢詩文又は短歌1首による創作（画仙紙半折）を課します。書体は自由とし、題材は当日指定します。

② 近作2点（過去2年以内に制作した半折以上の大きさのもの）を仮表装して、実技試験の際持参してください。

また、本人の制作であることを証明する指導教員等の書類を添付してください。展覧会等の入選証、出品目録、掲載図録等の写しでも構いません。

③ 試験当日、書道用具一式を持参してください。下敷き、硯及び用紙は本学で用意します。

なお、字典等の使用は認めません。

注6) 音楽教育コースの留意事項

① 音楽科教育学Ⅰ

ア 音楽教育の基本的事項に関する筆記試験を課します。

イ 実技試験では、コンコーネ50番中、13番、21番、32番の3曲から任意の1曲を弾き歌いしてください（唱法は自由）。楽譜を使用しても構いません。

② 音楽科教育学Ⅱ

音楽教育に関する小論文を課します。

③ 作曲

ア 和声課題を課します。

イ 出願時に、自作曲（様式自由）の楽譜（コピー可）を提出してください。また、エレクトロアコースティック・ミュージック（電子音響音楽）等のように楽譜のない作品の場合は、録音物のコピーを提出してください。

④ 音楽学

筆記試験を課します。

⑤ 実技試験

ア 「声楽」

歌曲及びアリア（オペラ又はオラトリオ：原調）を各1曲、暗譜で演奏してください。演奏時間は、合わせて10分程度とし、伴奏者を同伴してください。

イ 「器楽（ピアノ）」

任意のプログラムを暗譜で演奏してください。ただし、基礎的な技術を示すことができる楽曲を含めてください。演奏時間は、10～15分程度とします（反復は省略して演奏してください）。

ウ 「器楽（管楽器）」

任意のプログラムを演奏してください。ただし、基礎的な技術を示すことができる楽曲を含めてください。演奏時間は、10～15分程度とします（反復は省略して演奏してください）。伴奏が必要な場合は、伴奏者を同伴してください。暗譜の必要はありません。

エ 「声楽」, 「器楽(ピアノ, 管楽器)」とも演奏曲目を別紙(A4判, 様式自由)に記入し, 出願時に提出してください。

注7) 美術教育コースの留意事項

- ① 美術科教育学を選択した者は, 試験当日, 卒業論文及びその要旨(A4判で1,600字程度)を持参してください。卒業論文がない場合は, 入学後に行う研究に関する論文(8,000字以上)及びその要旨(A4判で1,600字程度)を持参してください。
- ② 実技試験
 - ア 実技試験を受験する者は, 試験当日, 以下のものを持参してください。
 - (ア) 平面・立体のいずれかの作品2点以内(口述試験時に提出)。ただし, 一人で持ち込める程度の大きさのものとします。
 - (イ) 提出作品以外の作品資料の写真(キャビネ判)数点
 - イ 実技試験用具は本学で用意します。

6 合格者の発表

合格者には郵便により合格通知書を送付するとともに, 合格者の受験番号を次により発表します。

	日 時	発 表 方 法
第1期募集	平成23年9月27日(火)13時	岩手大学事務局掲示場・教育学部掲示場及び 本学ホームページによる発表 http://www.iwate-u.ac.jp/
第2期募集	平成24年2月15日(水)13時	

※ 合否の問い合わせには, 一切応じません。

7 入学手続等の概要

入学手続等の概要は次のとおりです。なお, 詳細については, 合格者に送付する入学手続関係書類で指示します。

(1) 大学納付金

入 学 料	282,000 円 (予定額)
授 業 料	年額 535,800 円 (予定額)

注1) 上記納付金は予定額であり, 入学時及び在学中に納付金額の改定が行われた場合には, 改定時から新たな納付金額が適用されます。

注2) 国費(日本国政府)外国人留学生の入学料及び授業料は不要です。

- (2) 大学納付金及び学生教育研究災害傷害保険料等の納付方法並びに入学料, 授業料免除の申請方法及び必要書類については, 合格者に別途通知します。

8 教育方法の特例措置等

社会人(現職教員を含みます。)で, 教育方法の特例措置を希望する者には, 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を適用し, 大学院教育を受ける機会を拡大するため, 次の特例措置を行います。

- (1) 現職教員を除く社会人の場合, 夜間及び長期休業中に一部授業を開講します。
- (2) 現職教員の場合, 次の特例措置を行います。
 - ① 修業年限2年のうち, 第1年次は在職校等における勤務を離れて大学院での学業に専念し, 所定の履修方法に従って履修します。
 - ② 第2年次は, 大学院設置基準第14条の教育方法の特例措置に基づき, 在職校等に勤務しながら講義, 特別演習, 特別研究等について研究科の指定した日及び曜日に登校して, 指導を受けるものとします。

9 長期履修制度

本研究科では、職業を有しているなどの事情（注1）によって、標準修業年限である2年を超えて、一定の期間（最長4年まで）にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを願い出た者には、審査の上許可することがあります。

この制度の適用学生の授業料総額は、標準修業年限（2年）で修了する学生が納める授業料総額と同額となります。

なお、この制度の申請方法等は、合格者に別途通知します。

注1）該当者：①職業を有している者

（1日8時間週3日以上又は1日4時間週4日以上勤務者で6月以上の継続雇用者）

②家事従事者又は育児にあたっている者

③前各号に該当しないが本人の収入で生計を維持している者

④その他、本研究科が適当と認める者

注2）長期履修学生のための特別なカリキュラムは、原則として用意しません。

詳細については、岩手大学学務部学務課（☎019-621-6077）にお問い合わせください。

10 個人情報の取り扱い

出願書類に記載されている氏名、性別、住所その他の個人情報（入試成績に関する情報を含む。）は、本学において、入試の実施・入学手続、入学者の受入準備、奨学金等の制度の運用、統計資料等の作成及び入試に関する調査・研究に利用します。

また、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがない場合に限り、提供することがあります。

- (1) 本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき。
- (2) 行政機関（行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律第2条第1項に規定する行政機関）、他の独立行政法人等、地方公共団体又は地方独立行政法人に提供する場合において、提供を受ける者が、法令の定める事務又は業務の遂行に必要な限度で提供に係る個人情報を利用し、かつ、利用について相当な理由のあるとき。
- (3) 統計の作成又は学術研究の目的のために他の機関に提供するとき。
- (4) 本学の業務を行うために、個人情報の電算処理を外部に委託する場合、個人情報の提供が必要なとき。（なお、この場合には、個人情報保護法の趣旨に則った保護管理の事項を明記のうえ契約します。）

11 障がい等を有する入学志願者との事前相談

本研究科に入学を志願する者で、障がいあるいは疾病等により受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、下記期日までに「事前相談について」（次ページ様式参照）を提出してください。

なお、必要により、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行う場合があります。

提出期限 第1期募集 平成23年8月2日（火）

第2期募集 平成23年11月30日（水）

提出先 岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

12 問い合わせ先

岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

☎019-621-6064

平成 年 月 日

岩手大学長 殿

氏 名
(志願者との関係)
住 所
電 話 — —

事前相談について

下記により事前に相談したいので、関係書類を添えて提出します。

記

1 志願者氏名等

ふりがな 氏 名	男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日生
現住所	〒 —	電話	—	—		
出身学校名		電話	—	—		

2 志望研究科等名

研究科・専攻	研究科	専攻	コース
--------	-----	----	-----

3 障がいの種類・程度

4 受験上特別な配慮を希望する事項・内容

5 修学上特別な配慮を希望する事項・内容

6 出身学校在学中にとられていた特別な措置

7 日常生活の状況

8 添付書類

- (1) 健康診断書
- (2) その他

注 1 出身学校関係者等が記入願います。

注 2 6の「出身学校在学中にとられていた特別な措置」については、詳細に記入願います。

注 3 本用紙に書ききれない場合には、適宜別紙に記入してもかまいません。

注 4 健康診断書等の書類は、必ず添付願います。

注 5 ※欄には記入しないでください。

※大学記入欄

IV 電算処理カードの記入要領及び記入例

1 記入要領

- (1) 電算処理カードは、次の要領で記入してください。
 - ① 「大学記入欄」には記入しないでください。
 - ② 5. 本人の状況欄の「進学」とは、大学等の卒業見込の者が該当します。
 - ③ 電算処理カードの3. 4. 5. 6. 7. 9. 10の欄の□の部分には、下記の「正しい書き方例」にならって丁寧に英数字を記入してください。
 - ④ 漢字は正しく楷書で、記入してください。
- (2) 電算処理カードは、必ず**HBのシャープペンシル(0.5mmしん)**で**濃く丁寧に**記入してください。
- (3) 間違って記入した場合は、プラスチック消しゴムで丁寧に消してから書き直してください。
- (4) 電算処理カードは、絶対に折り曲げたり汚したりしないでください。

2 正しい書き方例

正しい書き方例

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F G H J K L M N P Q
R S T U X Y Z

個々の注意点(○印の部分は、特に注意してください。)

0 輪を大きく円にしない	0, 0 等は不可	5 縦線を突き出す	5, 5 等は不可
1 垂直にまっすぐに	/, 1 等は不可	6 線を長く輪はつなぐ	6, 6 等は不可
2 下の横線を真横に	2, 2 等は不可	7 カギをつけ脚は垂直に	7, 7 等は不可
3 中央を突き出す	3, 3 等は不可	8 交点をXに下の円を大きく	8, 8 等は不可
4 線は十分長く	4, 4 等は不可	9 輪はつなぎ縦線は長くのばす	9, 9 等は不可

「現職教員入試」 志願者用

V 教育・研究業績調書の記入要領及び記入例

- 「教育・研究業績調書」は、下記を参照のうえ記入してください。
- 教育・研究業績は、教育実践業績と研究業績に分類されます。
- 教育実践業績には、本人の指導した児童・生徒・団体の活動、教育関連組織での様々な実践などが含まれます。
 - 研究業績には、公刊・記録された「論文」、「著書」、「研究報告」、「作品」、各種研究会での「研究発表レポート」、「実践レポート」などが含まれます。
 - 本人の担当部分が明示されていないものであっても、共同の教育実践業績や研究に含まれるものは記入してください。
- 記入した論文、著書、研究報告、作品、レポート等は別刷又は写しを添付してください。

(記入例)

教育・研究業績の名称	発行/実践期間・ 単独/共同の別	発表/実践 年 月	左記の教育・研究業務の概要 (1項目につき100～200字程度)
(教育実践業績の場合)			
「〇〇単元の教材開発について」 (教育実践レポート)	〇〇小学校 単著	H20年1月	
「〇〇の指導について」 (教育実践レポート)	〇〇県〇〇科 教育研究会 共著	H21年2月	
〇〇県〇〇〇協会役員として活動	〇 〇 県 〇〇〇 協会 単独	H20年 4月～12月	
〇〇の指導員として活動	〇 〇 〇 会 共同	H22年 4月～12月	
〇〇合唱団指揮者として活動	〇〇合唱団 単独	H21年 4月～12月	
(研究業績の場合)			
「〇〇〇論」(論文)	〇 〇 教 育 研 究 所 単著	H20年6月	
「〇〇〇〇研究」(著書)	〇 〇 〇 社 共著	H21年3月	
「〇〇に関する報告」 (実践レポート)	〇〇小学校 単著	H22年4月	
〇〇(絵画) 出展作品作成	〇〇作品展 単独	H22年8月	

Ⅵ 専攻・コース別授業科目一覧

学校教育実践専攻

教育実践コース・特別支援教育コース

専攻共通科目	学習指導法の実践と課題 認知心理学の理論と教育実践 授業開発研究Ⅰ（読解力開発） 授業開発研究Ⅱ（自然科学における観察・実験） 授業開発研究Ⅲ（数学的思考力開発） 授業開発研究Ⅳ（岩手の歴史・文化と地域教材） 授業開発研究Ⅴ（地域社会と国際理解） 生徒指導・教育相談の実践と課題 子ども理解の実践と課題 学級経営の実践と課題 教育コミュニケーションの実践と課題 発達障害児の教育的支援の実践と課題 特別支援教育コーディネーターの実践と課題 生活習慣形成特論 学校・地域・家庭の連携特論 教育思想特論 教育思想特別演習 教育史特論 教育史特別演習 教育社会学特論 社会教育特論 社会教育特別演習 教育方法特論 教育制度特論 教育制度特別演習 学校経営特論 教育心理学特論 教育心理学特別演習 発達心理学特論 発達心理学特別演習 発達臨床心理学特論 教育評価特論 教育評価特別演習
	総合的学習カリキュラム開発 授業研究・分析方法 実践演習：授業分析Ⅰ 実践演習：授業分析Ⅱ 小規模・複式学級指導の実際Ⅰ 小規模・複式学級指導の実際Ⅱ 教育メディアカリキュラム開発
コース発展科目（教育実践コース）	学校臨床実践論Ⅰ 学校臨床実践論Ⅱ 学校カウンセリング実践研究 学校臨床事例研究Ⅰ 学校臨床事例研究Ⅱ 学校臨床実践特別演習 ※特別支援カウンセリング特別演習Ⅰ ※特別支援カウンセリング特別演習Ⅱ ※特別支援臨床心理学特別演習Ⅰ ※特別支援臨床心理学特別演習Ⅱ

コース発展科目（教育実践コース）	生活自立力開発分野	生活自立力開発特別演習 A 生活自立力開発特別演習 B 生活自立力開発特別演習 C キャリア教育と子どもの自立支援 食教育指導の実際 体験活動・ものづくり指導の実際 情報モラル教育と子どもの自立支援 地域の教育力と子どもの自立支援
	☆ 分野共通	国語科教育実践研究Ⅰ 国語科教育実践研究Ⅱ 社会科教育実践研究Ⅰ 社会科教育実践研究Ⅱ 数学科教育実践研究Ⅰ 数学科教育実践研究Ⅱ 理科教育実践研究Ⅰ 理科教育実践研究Ⅱ 音楽科教育実践研究Ⅰ 音楽科教育実践研究Ⅱ 美術科教育実践研究Ⅰ 美術科教育実践研究Ⅱ 保健体育科教育実践研究Ⅰ 保健体育科教育実践研究Ⅱ 英語科教育実践研究Ⅰ 英語科教育実践研究Ⅱ
コース発展科目（特別支援教育コース）		特別支援臨床心理学特論 特別支援臨床心理学特別演習Ⅰ 特別支援臨床心理学特別演習Ⅱ 特別支援発達心理学特論 特別支援発達心理学特別演習Ⅰ 特別支援発達心理学特別演習Ⅱ 特別支援カウンセリング特論 特別支援カウンセリング特別演習Ⅰ 特別支援カウンセリング特別演習Ⅱ 特別支援教育内容方法論特論 特別支援教育内容方法論特別演習Ⅰ 特別支援教育内容方法論特別演習Ⅱ 知的障害教育方法学特論 知的障害教育方法学特別演習Ⅰ 知的障害教育方法学特別演習Ⅱ
教 職 専 門 実 地 研 究 課 題 特 別 研 究		

※印は、特別支援教育コース開設科目です。

☆印は、教科教育専攻開設科目です。

教科教育専攻

国語教育コース

教科教育専門科目	国語科教育基礎論 国語科教育学特論 国語科教育学特別演習Ⅰ 国語科教育学特別演習Ⅱ 書道科教育基礎論 書道科教育特別演習Ⅰ 書道科教育特別演習Ⅱ 言語教育系共通課題研究 国語科教育実践研究Ⅰ 国語科教育実践研究Ⅱ
----------	---

教科専門科目	国語科教育内容特論 国語学特論Ⅰ 国語学特論Ⅱ 国語学特別演習Ⅰ 国語学特別演習Ⅱ 国語学特別演習Ⅲ 国語学特別演習Ⅳ 国語学特別演習Ⅴ 古典文学特論 古典文学特別演習Ⅰ 古典文学特別演習Ⅱ 近・現代文学特論 近・現代文学特別演習Ⅰ 近・現代文学特別演習Ⅱ 漢文学特論 漢文学特別演習Ⅰ 漢文学特別演習Ⅱ 書道特論 書道特別演習Ⅰ 書道特別演習Ⅱ 書道特別演習Ⅲ 書道特別演習Ⅳ
	特 別 研 究

社会科教育コース

教科教育専門科目	社会科教育基礎論 社会科教育学特論 社会科教育学特別演習A（地歴） 社会科教育学特別演習B（公民） 生活・社会系共通課題演習 社会科教育実践研究Ⅰ 社会科教育実践研究Ⅱ
教科専門科目	社会科教育内容特論A（地歴系） 社会科教育内容特論B（公民系） 日本史特論 日本史特別演習Ⅰ 日本史特別演習Ⅱ 西洋史特論 西洋史特別演習Ⅰ 西洋史特別演習Ⅱ 人文地理学特論 人文地理学特別演習Ⅰ 人文地理学特別演習Ⅱ 自然地理学特論 自然地理学特別演習Ⅰ 自然地理学特別演習Ⅱ 地誌学特論 法律学特論 法律学特別演習Ⅰ 法律学特別演習Ⅱ 経済学特論 経済学特別演習Ⅰ 経済学特別演習Ⅱ 社会学特論 社会学特別演習Ⅰ 社会学特別演習Ⅱ 共生倫理学特論 倫理学特別演習Ⅰ 倫理学特別演習Ⅱ

教科専門科目	哲学特論 哲学特別演習Ⅰ 哲学特別演習Ⅱ 考古学特論 考古学特別演習Ⅰ 考古学特別演習Ⅱ
特	別 研 究

数学教育コース

教科教育専門科目	数学科教育基礎論 数学科教育学特論 数学総合教育論 算数科教育学特別演習 数学科教育学特別演習 数学科教育実践研究Ⅰ 数学科教育実践研究Ⅱ
教科専門科目	数学科教育内容特論 代数学特論Ⅰ 代数学特論Ⅱ 代数学特別演習 幾何学特論Ⅰ 幾何学特論Ⅱ 幾何学特別演習 解析学特論Ⅰ 解析学特論Ⅱ 解析学特別演習
特	別 研 究

理科教育コース

教科教育専門科目	理科教育基礎論 理科教育学特論 理科教育学特別演習Ⅰ 理科教育学特別演習Ⅱ 自然環境系共通課題研究 理科教育実践研究Ⅰ 理科教育実践研究Ⅱ
教科専門科目	理科教育内容特論 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ 物理学特論Ⅲ 物理学特別演習Ⅰ 物理学特別演習Ⅱ 化学特論Ⅰ 化学特論Ⅱ 化学特別演習 生化学特論 生物学特論Ⅰ 生物学特論Ⅱ 生物学特別演習 地学特論Ⅰ 地学特論Ⅱ 地学特別演習 素材加工特論 素材加工特別演習 科学計測特論 科学計測特別演習 生活科学特論 生活科学特別演習
特	別 研 究

音楽教育コース

教科教育専門科目	音楽科教育基礎論 音楽科教育学特論 音楽科教育学特別演習Ⅰ 音楽科教育学特別演習Ⅱ 音楽科教育学特別演習Ⅲ 芸術系共通課題研究 音楽科教育実践研究Ⅰ 音楽科教育実践研究Ⅱ		
教科専門科目	音楽科教育内容特論（声楽） 声楽特別演習Ⅰ 声楽特別演習Ⅱ 声楽特別演習Ⅲ 音楽科教育内容特論（作曲） 作曲特別演習Ⅰ 作曲特別演習Ⅱ 作曲特別演習Ⅲ 音楽科教育内容特論（指揮法） 音楽科教育内容特論（器楽A） 器楽特別演習AⅠ 器楽特別演習AⅡ 器楽特別演習AⅢ 音楽科教育内容特論（器楽B） 器楽特別演習BⅠ 器楽特別演習BⅡ 器楽特別演習BⅢ 音楽科教育内容特論（音楽学） 音楽学特別演習Ⅰ 音楽学特別演習Ⅱ 音楽学特別演習Ⅲ		
特	別	研	究

美術教育コース

教科教育専門科目	美術科教育基礎論 美術科教育学特論 美術科教育学特別演習Ⅰ 美術科教育学特別演習Ⅱ 芸術系共通課題研究 美術科教育実践研究Ⅰ 美術科教育実践研究Ⅱ
教科専門科目	美術科教育内容特論 絵画特論 絵画特別演習Ⅰ 絵画特別演習Ⅱ 絵画特別演習Ⅲ 絵画特別演習Ⅳ 彫塑特論 彫塑特別演習Ⅰ 彫塑特別演習Ⅱ 彫塑特別演習Ⅲ 彫塑特別演習Ⅳ ※デザイン特論 デザイン特別演習Ⅰ デザイン特別演習Ⅱ デザイン特別演習Ⅲ

教科専門科目	デザイン特別演習Ⅳ 工芸特論 工芸特別演習Ⅰ 工芸特別演習Ⅱ 工芸特別演習Ⅲ 工芸特別演習Ⅳ 美術史学特論 美術史学特別演習Ⅰ 美術史学特別演習Ⅱ 美術史学特別演習Ⅲ 美術史学特別演習Ⅳ		
特	別	研	究

※デザイン特論は担当教員毎に履修できる（重複履修可能）

保健体育コース

教科教育専門科目	保健体育科教育基礎論 保健体育科教育学特論 保健体育科教育学特別演習A 保健体育科教育学特別演習B 保健体育科教育実践研究Ⅰ 保健体育科教育実践研究Ⅱ		
教科専門科目	保健体育科教育内容特論 体育学特論 体育学特別演習 学校保健特論 学校保健特別演習 運動学特論A 運動学特論B 運動学特論C 運動学特別演習A 運動学特別演習B 運動学特別演習C		
特	別	研	究

英語教育コース

教科教育専門科目	英語科教育基礎論 英語科教育学特論Ⅰ 英語科教育学特論Ⅱ 英語科教育学特別演習 言語教育系共通課題研究 英語科教育実践研究Ⅰ 英語科教育実践研究Ⅱ		
教科専門科目	応用英語学基礎論 応用英語学特別演習 英語圏文学基礎論 英語圏文学特別演習 英語表現特論 英語表現特別演習A 英語表現特別演習B 英語科教育内容特論 スクール・インターンシップ・プログラムⅠ スクール・インターンシップ・プログラムⅡ		
特	別	研	究

注）授業科目によっては、事情により開講されない場合があります。

Ⅶ 教育学研究科担当教員の主な研究テーマ

平成23年6月現在

専攻	コース	教員名	主な研究テーマ		
学校教育実践	教育実践	遠藤孝夫	○ ドイツ近現代における教育史研究（特に「過去の克服」との関連での教育改革について） ○ シュタイナー学校の思想的・制度的研究		
		土屋明広	○ 学校紛争処理の研究 ○ 民族学校の制度的研究		
		新妻二男	○ 地域変動と社会教育 ○ 子どもの生活構造と生活課題		
		田代高章	○ 教育的相互行為に関する教育方法学的研究 ○ 総合学習に関する研究 ○ 授業参加・学校参加に関する研究		
		大河原清	○ 授業における映像教材の利用についての研究 ○ 地元伝説素材に基づく創作物語作成の研究 ○ 授業におけるコミュニケーション行動の研究		
		阿久津洋巳	○ 視知覚にもとづく認知の心理学，教育評価の研究 ○ 性格及び感情の研究 ○ 情動と行動（認知神経心理学）の研究		
		塚野弘明	○ 授業研究 ○ 学習過程の認知心理学的研究 ○ 教師教育研究		
		● 神常雄	○ 言葉の発達と障害		
		立花正男	○ 数学の見方や考え方を育てる指導の在り方 ○ 授業改善に生かす評価の在り方		
		山本 奨	○ 不登校臨床の研究 ○ キャリア支援に関する研究		
		室井麗子	○ フランスの教育思想 ○ 「主体」・「自己」形成の思想史 ○ 「死と教育」の思想史		
		岩木信喜	○ 知識の獲得に関する思考方法と教育方法に関する心理学 ○ 思考と学習の脳科学		
		長澤由喜子	○ 家庭科教育の方法論的研究 ○ 住生活及び住空間教育 ○ 空間評価における個人差の形成に関する研究		
		渡瀬典子	○ 家庭科教育における福祉体験学習 ○ 北米の家庭科教育に関する研究		
		武田京子	○ 保育思想史 ○ 児童文化財（児童文学，絵本） ○ 子育て支援活動		
		三井隆弘	○ 生活習慣病と食育 ○ 要介護高齢者の栄養状態		
		宮川洋一	○ 情報教育・ICT活用・ものづくり教育における教材，題材開発に関する研究 ○ 情報教育・ICT活用・ものづくり教育における授業改善に関する研究		
		特別支援教育		名古屋恒彦	○ 知的障害教育課程・指導法の実践的研究 ○ 知的障害教育方法史の研究
				宮崎 眞	○ 発達障害児（知的障害・自閉症）へのコミュニケーション・ソーシャルスキル指導の研究 ○ 自閉症児における問題行動の機能分析と指導法の検討

専攻	コース	教員名	主な研究テーマ
学校教育実践	特別支援教育	※鎌田文聰	○ 重症心身障害児（者）の発達に関する発達心理学的研究 ○ 健常及び障害乳幼児の防御反射と定位反応の発達に関する発達心理学的研究 ○ 発達障害児の教授-学習に関する発達心理学的研究
		我妻則明	○ 障害児と学校不適応との関連に関する研究 ○ 特別支援カウンセリング
教科教育	国語教育	藤井知弘	○ 学習者研究 ○ 読書教育研究 ○ 国語科教育実践学 ○ 授業分析
		大野真男	○ 現代日本語
		菊地悟	○ 近代日本語語彙の研究 ○ 明治大正期英和対訳辞書の訳語研究
		中村一基	○ 日本幻想文学研究 ○ 神仏的他界観と国学者の幽冥思想の研究 ○ 生と死の教育
		藪敏裕	○ 中国思想史 ○ 中国古代経学史
		玉澤友基	○ 漢字書作品の研究 ○ 太田孝太郎の業績とその背景
		平田光彦	○ 仮名書道 ○ 書写書道教育
	社会科教育	今野日出晴	○ 歴史教育の理論と実践に関する研究 ○ 歴史叙述論
		土屋直人	○ 戦前期日本の公民教育史・郷土教育史に関する研究 ○ 社会科における国際理解教育, 平和・人権教育論
		菅野文夫	○ 中世土地所有論・土地証文論 ○ 中世東北政治史の研究
		佐藤由紀男	○ 縄文・弥生移行期の生業研究 ○ 日本列島内の異文化間の比較研究
		安井もゆる	○ ローマ政治・社会史の研究 ○ 西洋古代の歴史記述に関する研究
		遠藤匡俊	○ 人文地理学 ○ 狩猟採集民アイヌの社会構造
		土井宣夫	○ 火山と変動地形の研究 ○ 自然災害とその軽減
		麦倉哲	○ ホームレス自立支援 ○ 福祉のまちづくり
		佐藤真	○ 不安定就業と社会政策 ○ 建設労働問題
		宇佐美公生	○ カント研究 ○ 近現代西洋倫理思想史 ○ 正義論研究
		★山崎憲治	○ 災害の地域構造 ○ 水資源論
		早川智津子	○ 外国人労働法制の研究 ○ アメリカ移民法の研究
		数学教育	★小宮山晴夫
★沼田稔	○ 図形教育の系統性と内容の充実を求めて ○ 算数における分数教育のあり方を求めて		
川田浩一	○ ワーリング問題などの加法的整数論 ○ 双子素数問題などの素数分布論		

専攻	コース	教員名	主な研究テーマ
教科教育	数学教育	押切源一	○ 葉層構造の微分幾何 ○ 葉層構造と付随するグラフ
		※中嶋文雄	○ ダッフティング方程式 ○ カオス力学系
		山崎浩二	○ 小学校算数の授業の実践研究 ○ 中学校教育の授業の実践研究
		中村好則	○ 算数、数学教育における ICT 活用 ○ 算数、数学学習における困難性を改善するための教材の開発
	理科教育	八木一正	○ 小・中学校における理科教育研究、高校における物理教育研究 ○ 概念形成：メタ認知、メタファー研究 ○ おもしろ実験イベント研究、スポーツ力学研究、遊園地の乗り物の物理研究
		名越利幸	○ 小・中学校における理科教材研究、高校における地学教育研究 ○ 理科カリキュラム論、デジタルコンテンツ教材論 ○ 気象教育、気象学
		重松公司	○ 圧力制御による直鎖アルカンの結晶成長の研究 ○ 高温超伝導酸化物単結晶育成の研究 ○ 複酸化物系の液体物性の研究
		★吉村泰樹	○ 土壌中のアルミニウムおよび鉄の定量および化学形態分布の比較 ○ 酸性雨による土壌からのアルミニウム溶出の検証 ○ アルミニウムの溶出量と土壌中の化学形態との関連の検討
		武井隆明	○ 分子の電子励起状態の解析 ○ 二原子分子の電子励起状態における双極子モーメントの測定
		菊地洋一	○ 溶媒抽出平衡 ○ 金属イオンの微量分析 ○ 小・中学校における物質学習
		天木桂子	○ 界面活性剤水溶液のレオロジー挙動の解明 ○ 洗浄と染色の科学 ○ 被服教育における実験教材の効果的な導入について
		☆内山三郎	○ 粘菌細胞等における自家蛍光物質（プテリジン）の機能解析 ○ 細胞性粘菌における細胞分化制御機構の解析
		梶原昌五	○ マボヤの神経系 ○ 環境教育
		土谷信高	○ 花崗岩岩石学 ○ 大陸地殻の生成機構
		●井上祥史	○ 複雑系のシミュレーション ○ 情報システムの教育への活用
		★荒木田英禎	○ 基本天文学（位置天文学、天文力学、天体暦） ○ 理論天文・宇宙物理（一般相対論、宇宙線物理） ○ 数値計算法（数値積分法、シミュレーション技法）
	音楽教育	川口明子	○ 音楽教育と民族音楽学 ○ 西ジャワの音楽の演奏と研究（ガムラン、トゥンパン・スング）
		白石文子	○ アメリカの音楽科教育論に関する歴史的・哲学的研究 ○ 戦後初期の音楽科教員養成の日米比較
		佐々木正利	○ 日独伊の歌曲及びアリアの歌唱法の研究 ○ 発声法及び指導法の研究 ○ 合唱指導法及び指揮法の研究
		★山口哲人	○ 作曲、編曲法の研究 ○ 指揮法の研究
重野和彦		○ 作曲様式の違いに対応したピアノ演奏法の研究 ○ アンサンブルに於けるピアノの役割とその演奏法の研究	
牛渡克之		○ ユーフォニアム演奏法の研究 ○ 吹奏楽指導法 ○ 指揮法の研究	
木村直弘		○ 音楽美学 ○ 西洋音楽史 ○ 音楽思想史	

専攻	コース	教員名	主な研究テーマ
教科教育	美術教育	煤孫康二	○ 美術・工芸科教育の理論及び総合造形の理論的研究 ○ 美術教育における現代美術の位置付けに関する実践的研究 ○ 英国の美術・デザイン教育に関する研究
		本村健太	○ バウハウスの研究 ○ 芸術教育研究 ○ メディアリテラシー教育の研究
		近藤克義	○ 絵画制作・研究（抽象表現） ○ 版画表現の実践的研究
		藁谷収	○ 石彫制作 ○ 都市空間と彫刻
		田中隆充	○ 工業デザインにおける実践と理論の融合に関する研究 ○ 商品企画における創造的コンセプト生成のための発想支援の研究 ○ 地域の特性や伝統技術のデザイン化に関する研究 ○ 携帯電話を用いた地域の活性化
		阿部裕之	○ 日本の伝統的込型鑄造法の研究 ○ 日本の伝統的惣型鑄造法の研究 ○ 日本の伝統的蝸型鑄造法の研究 ○ ヨーロッパ式石膏鑄造の研究
		★種倉紀昭	○ 絵画の技法・材料と技術用語の研究 ○ 近代芸術のパラドックスの研究 ○ 絵画・描画の制作と鑑賞の指導法の研究
	保健体育	☆浅見裕	○ 教科体育における教授学的研究 ○ 剣道の指導方法論
		清水茂幸	○ 学校体育における走運動の指導方法論 ○ 陸上競技の指導方法論
		★小笠原義文	○ 体育・スポーツに関する社会学的意識調査 ○ バレーボールの指導方法論
		上濱龍也	○ 青少年の生活行動と健康 ○ スポーツ活動時の疾病・事故の予防
		栗林徹	○ バasketボールのコーチング ○ 健康と運動
		鎌田安久	○ サッカーのコーチング ○ 運動制御の解析（神経・筋）
		澤村省逸	○ 野球のコーチング ○ トレーニング科学
	英語教育	アンハー, マイケル	○ 英米言語文化研究 ○ 知覚と言語 ○ 文化とアイデンティティ
		ホール, ジェームズ	○ タスクを取り入れた英語科教育法 ○ 多文化教育視点を取り入れた英語科教育法の研究 ○ 学習者のライティングの誤りの指導に関する研究 ○ 英語の絵本を活用した小学校外国語活動
		山崎友子	○ スピーチアクトの国際比較とその指導法についての研究 ○ 第2言語によるコミュニケーション能力の発達とその指導法についての研究 ○ 外国語学習と文化学習に関する研究 ○ 小学校の外国語活動（英語活動）の開発研究
		犬塚博彦	○ 英語音声学 ○ 英語音韻論
		境野直樹	○ 17 - 18世紀英文学 ○ シェイクスピア研究

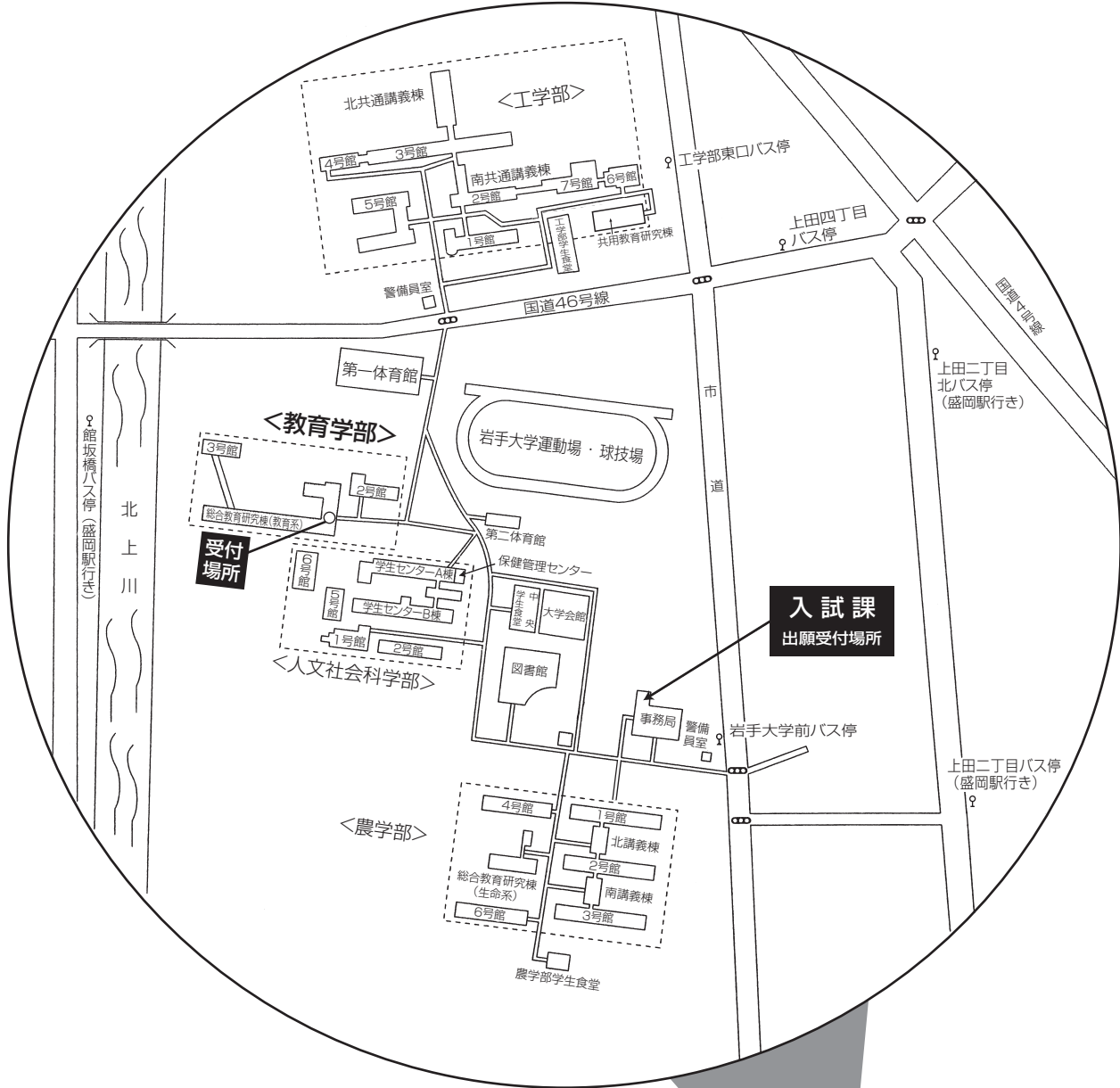
※印の教員は、平成24年3月定年により退職となります。

☆印の教員は、平成25年3月定年により退職となります。

●印の教員は、平成26年3月定年により退職となります。

★印の教員は、平成24年3月までの担当となります。

試験場への案内



盛岡駅東口バスターミナル（11番のりば）から岩手県交通バスの駅上田線「松園バスターミナル行き」に乗車し「岩手大学前」で下車、又は駅桜台団地線「桜台団地行き」に乗車し「岩手大学前」で下車してください。

- 注1) 盛岡駅から約2km、徒歩約25分です。
- 注2) タクシー利用の場合
盛岡駅「タクシーのりば」から約10分で、料金は1,000円程度です。
- 注3) 盛岡駅行き(帰り)のバス停については、上記の案内図を参照してください。

盛岡駅東口バスターミナル案内図

